

これからどうなる？

北海道の農家戸数と平均経営規模

概要 Abstract

統計値を用いて、これまでの傾向をふまえた2030年までの動向予測を行いました。

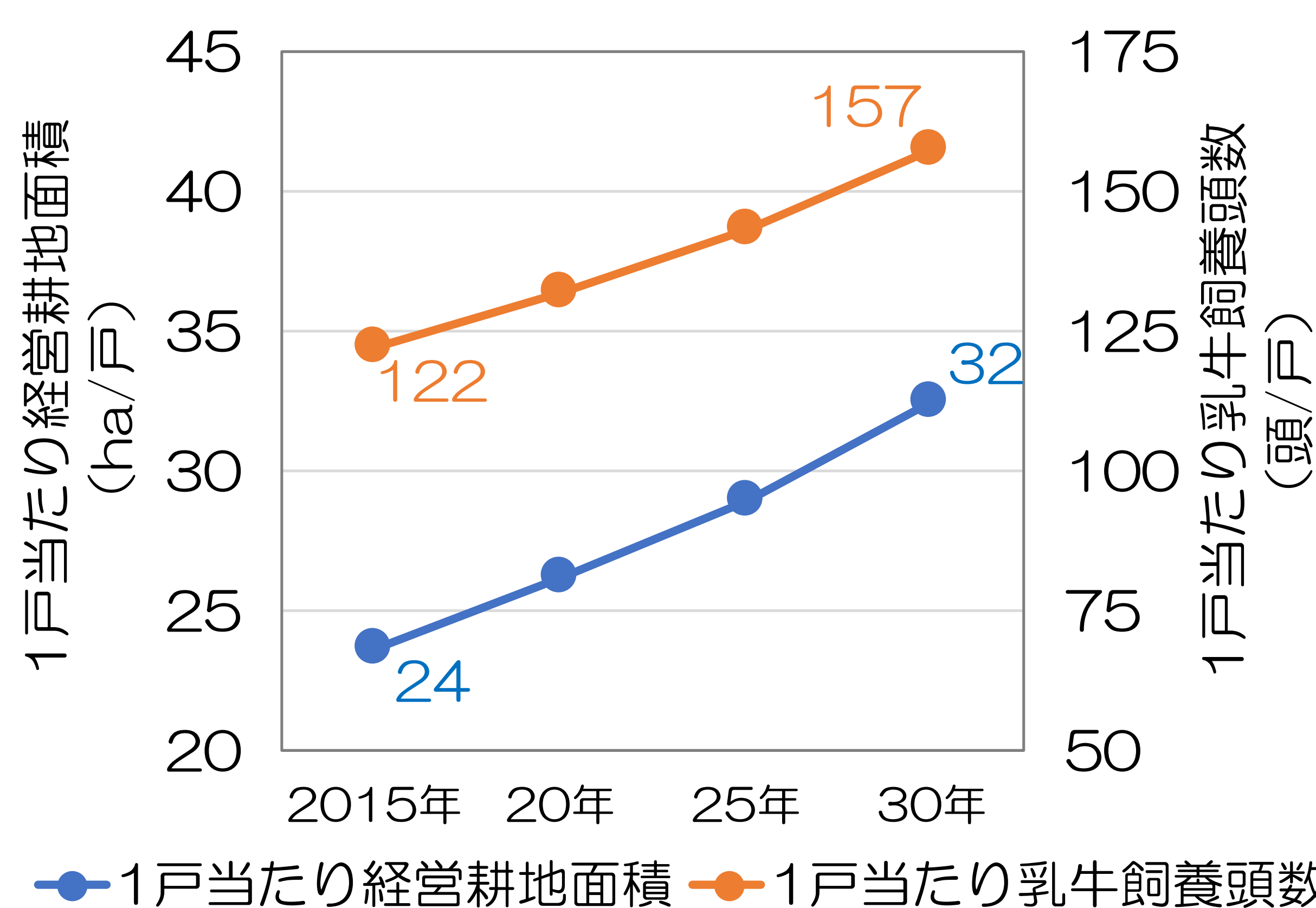
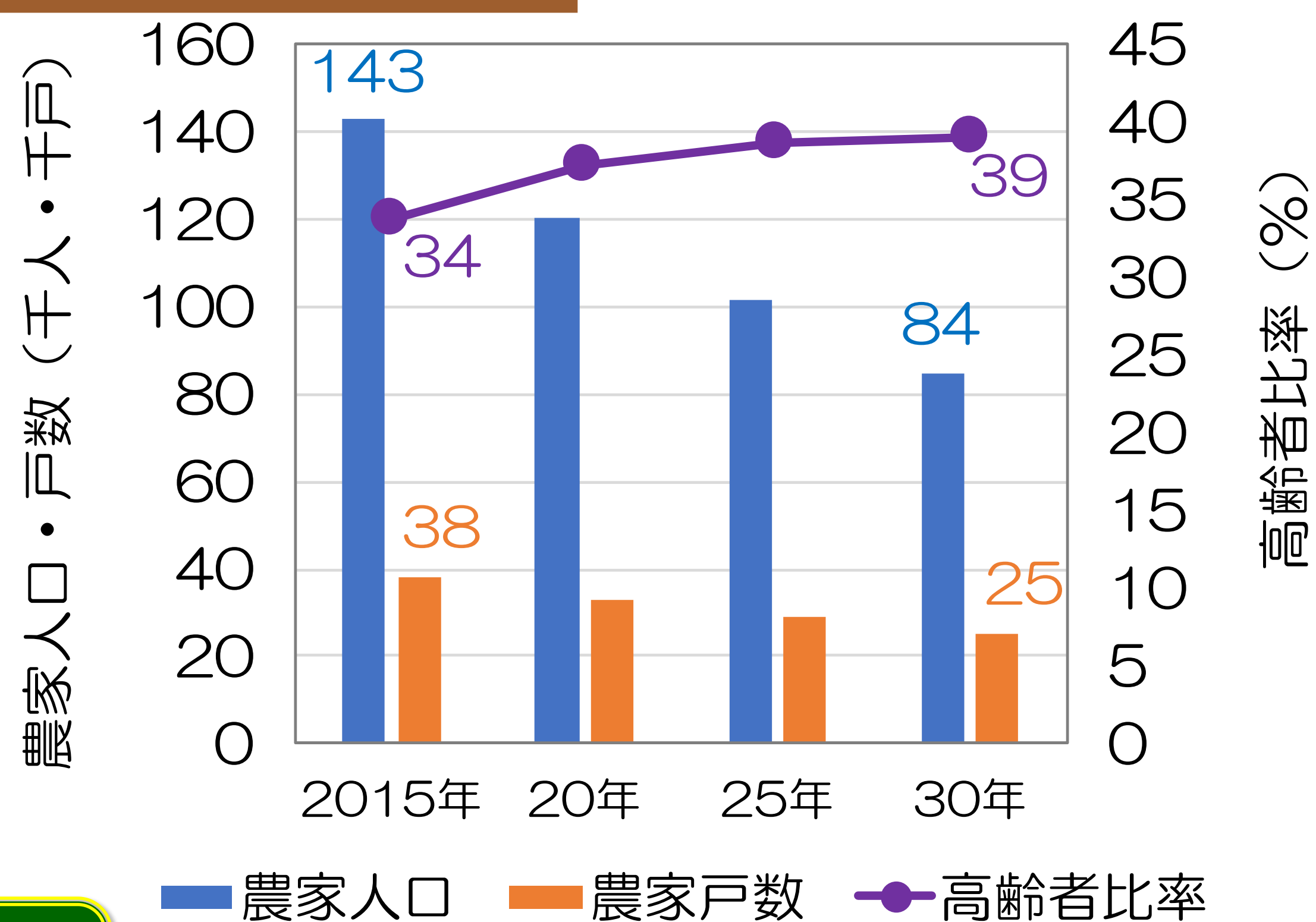
その①

振興局別・市町村別に販売農家の戸数と人口を予測しました

その②

予測した面積・頭数に必要な1戸当たり経営規模を推計しました

成果 Results

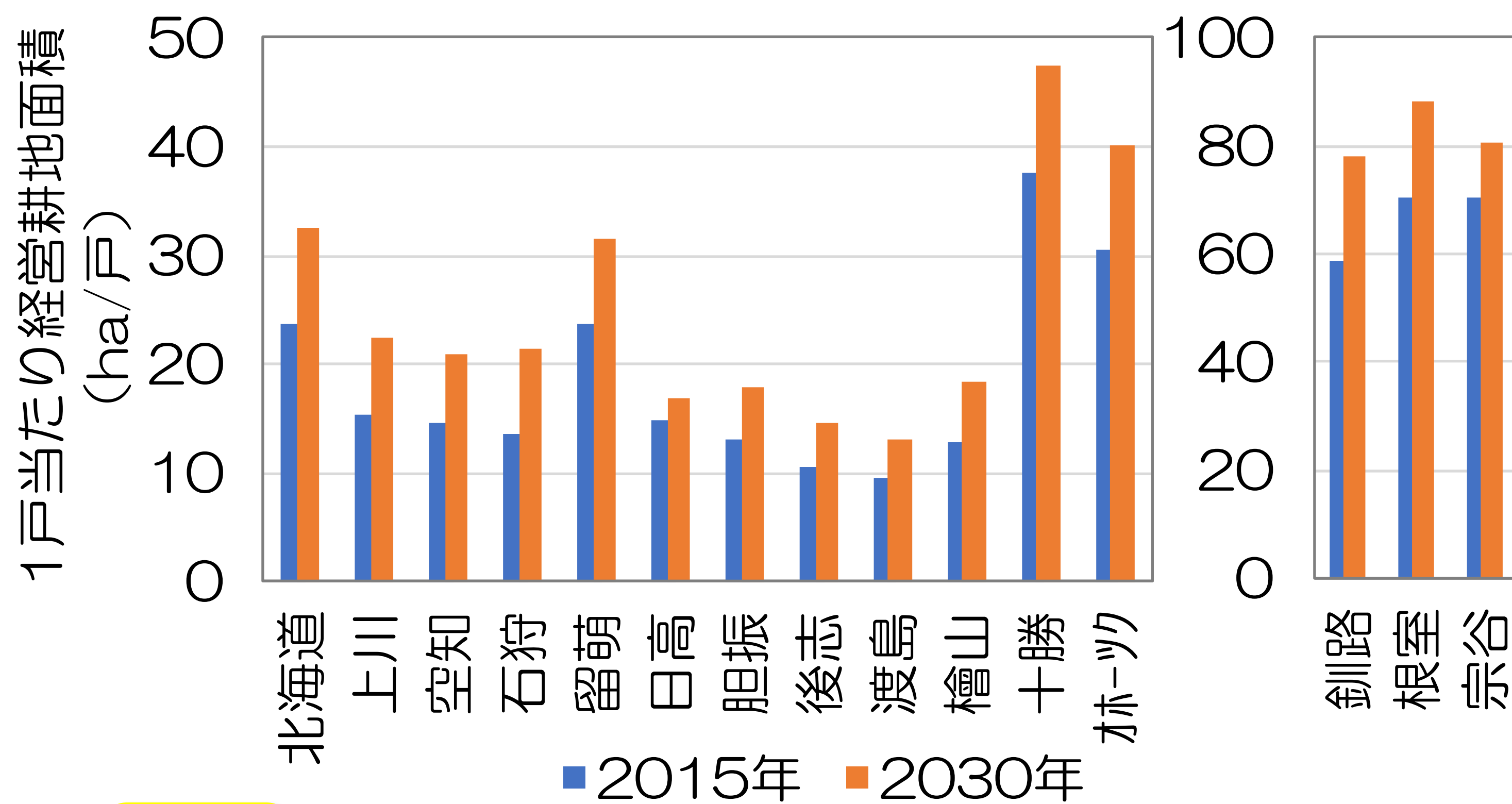
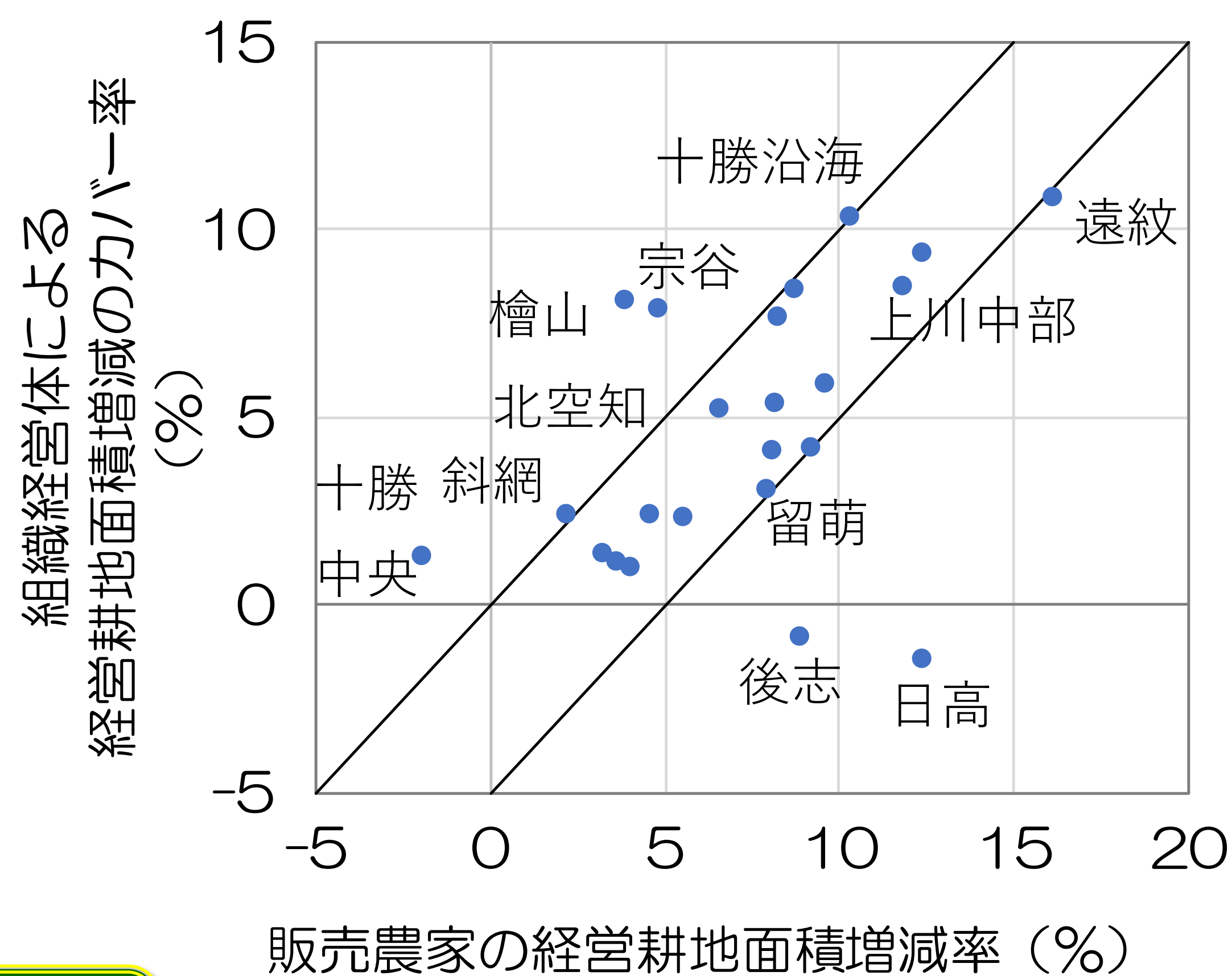


戸数予測

2030年の販売農家戸数は、2015年対比で66%への減少が見込まれました。

規模予測

2030年の1戸当たり面積は、2015年対比で137%へ拡大する必要があることが予測されました。



面積動向

北海道の農地は販売農家の他、協業法人等によっても担われ、その傾向は地域で異なります。

振興局別

水田作地帯15～30ha、畑作地帯40～60ha、酪農地帯60～90haが必要な規模と予測されました。

【用語解説】

販売農家：家族（1世帯）によって営農される経営体（経営耕地面積30a以上または農産物販売金額50万円以上）であり、協業法人や農家以外の事業体（組織経営体）を含まない。

普及 Dissemination

今後の農業施策や技術開発目標を考える材料として活用できます。

連絡先 Contact

十勝農業試験場
研究部生産システムグループ
0155-62-9828
tokachi-agri@hro.or.jp